

## 研究主題

知識に親しみ，コミュニケーションに優れた共に生きる児童

白井市立大山口小学校

## 研究内容

### (1) ピア・サポートプログラムへの理解を深めるための取り組み

#### < 19年度 >

教師が全学年のスキルを理解するために，全学年の授業参観をし，全研究協議会への参加を行った。

ピア・サポートの哲学・プログラムの根底に流れる理論を，NPO法人教育臨床研究機構（なかよしキッズステーション）牧野先生より教えていただいた。1年間のまとめの際には，中野良顯先生に講演していただいた。

#### 理論研修会一覧

回	月日	内容
1	2007.4.25	・行動分析学とは ・なぜ，下から教えるの？
2	2007.5.11	・直接教授法モデルに基づく授業構成 ・オーガナイザーって何？
3	2007.5.18	・感情って何？どうやって育てる？
4	2007.5.31	・問題解決能力とは
5	2007.6.14	・コミュニケーションは，どう構成されているか？
6	2007.10.4	・指示の出し方
7	2007.10.17	・感情の読み方の違い ・補助の与え方
8	2007.10.24	・なぜ感情を教えるか？ ・学んだことを日常生活に生かす = 般化維持とは
9	2007.11.22	・学んだことを日常生活に生かす = 般化維持とは その2 ・教えていかななくてはならない4つの問い

この他に，授業日の放課後には研究協議を行い，指導をいただいた。（8回）

6/9，6/21，6/28，7/4，11/1，11/8，12/7，3/6

職員のピア・サポートプログラムへの理解は深まり，自分の学年のプログラムを児童の実態に合わせて変更したり，工夫したりするための基礎作りとなった。しかし，授業準備をする時間が少なくなったりと，時間に追われながら研修を進めたりすることになった。このため，児童の般化の際のモデルとして重要である教師自身が相互に尊重し，協力し合える余裕がだんだんなくなりがちにもなった。

また，多忙さの中，日常場面での児童の褒めるべきスキルの実行に気づかないことがあるとあり，スキルの定着に結びついていないのではないかと課題もでてきた。

そこで，20年度より研究協議は学年ごとに行い，19年度より減った研究協議の分を授業準備等に当て，授業の充実，般化・維持に努めることにした。

< 20年度 >

研究協議，理論研修が減っても，スキルの理解を継続して行うために，スキルの紹介や系統を確認するプリントを配布した。

プリントの例

日常的な般化・維持。全職員、共通理解の下、取り組んでみましょう。

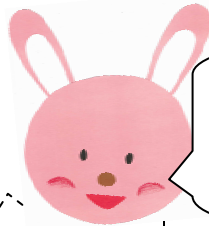
その学年、そのセッションのちょっとしたコメントです。参考にしてください。

### 今回の授業のポイント

丸囲み数字と点(例: ①、②)は学習のポイント、半角数字(例: 1)は行動のステップを表しています。

1年生

めあて: あいさつ上手になろう  
あいてをみる  
じぶんからする  
げんきよくする



中3まで9年間続くピア学習の最初の1回目。2校時から5校時までやっているの、是非10分でも参観していただけたら、と思います。

いよいよ1年生のあいさつデビューです。全職員で、元気のよい1年生のあいさつにこたえてあげましょう。それが正の強化子になります。

4年生同様、3年生には、「今、先生はどんな気持ちだと思う?」と聞き、気持ちを言葉であらわすことを教えていきましょう。

先週4年生で学習した「感情」の3年生版です。「気持ち」という言葉で学習します。

3年生

目標: 気持ちをあらわす言葉を知ろう!  
気持ちは人の体の中でおこる  
本当の気持ちは本人にはわからない  
「気持ちをあらわす言葉」はたくさんある



5年生には、何か問題が起きたら、解決をいくつか自分で考えさせるようにしてみましょう。そして、一つ一つを自分で吟味させて選ばせるようにしてみましょう。

第1セッションでは、「3・4」を学習しましたが、第2セッションでは、「2」の2つ以上の解決方法を思いつけるようになる!を目標に取り組みます。コツは、以下の3つです。

- コツ1 .はじめから ×をつけない
- コツ2 .それぞれの立場に立って解決方法を考える
- コツ3 .みんなの願いが少しでもかなう解決方法を考える

5年生

- 目標: 考えよう。解決方法はもっとある!
1. 解決すべき問題を言葉にする
  2. 解決方法を2つ以上思いつく
  3. もしその解決方法を本当にためしてみたら、どんな結果が起こるか予想する
  4. それぞれの方法を比べて、1番よいものを実行する



NPO法人教育臨床研究機構（なかよしキッズステーション）牧野先生より年1回ずつ、各学年のプログラムの説明と般化・維持，促進への言葉かけ，働きかけを具体的に教えていただいた。その時の資料は全学年に配布した。

### 3年生のプリント

3年生【感情】 単元目標 いろいろな気持ちがわかりようになるう！			
目標	学習のポイント	概要	般化のヒントの声かけ
気持ちをあらわす言葉をしろう！	①気持ちは人の体の中でおこる ②本当の気持ちは本人にしかわからない ③気持ちをあらわす言葉はたくさんある たのしい、どきどき、びっぴり、てれー	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポイントの①②③について説明した後、特に③に注目した活動をする。</li> <li>1回目は様々な単語の中から「気持ちを表す言葉」を探す。2回目は、会話文の中から「気持ちを表す言葉」を探す。この活動から、「気持ちを表す言葉」には様々な種類があることを知る。</li> </ul>	「本当の気持ちは、だれにしかわからないんだっけ？」 「そういうのを○○な気持ちって言うんだよ」 「先生は、今、○○な気持ちだよ」 「今、○○な気持ちじゃない？」 「○○な気持ちってこともあるんだね！」 「気持ちの言葉、上手に使えているね！」
体のへんかを見て、人の気持ちを考えよう！	④気持ちが動くとき体にも変化が起こる 顔が出ている 眉が下がっている うつぶしている 手がダラン… 肩もが下がっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>涙を流して、肩を落としているピア子ちゃんを見て、気持ちを考える。</li> <li>私たちはなぜ、他人の気持ちがわかるのか。それは、その人の体の変化を見ているからということに気づく。</li> <li>そこで、モデルのような体の変化を表している人はどんな気持ちと言えるか。また、それはどのような体の変化からわかったのか、を記録する（怒っている人・嬉しい人をモデルとする）。</li> </ul>	「今、○○な気持ちじゃない？」 「××さんの体の変化、見てみたら？」 「先生の様子を見て、気持ちを考えて」 「先生、今、どんな気持ちだと思う？（怒りの場面で使いがち。よい気持ち、よくない気持ち両方で使うようにする）」 「○○な気持ちのときって、心臓がドクドクしているのがわかるよね」 「気持ち、わかってくれてありがとう。」
気持ちをわかり合うために大切なことをしろう！	⑤人の気持ちは、体のへんかからわかる ⑥人の気持ちは、気持ちをあらわすことばでもっとわかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いの気持ちを分かり合うためには、何が必要だろうか？これまでの学習を活かすとすれば、それは「体の変化」である。「体の変化」は人に気持ちを伝えるサインである。そのことを実際に体験する。</li> <li>しかし、いつも「体の変化」だけでうまくいくとは限らない。授業の最後には、「言葉」も大切であることを知る。</li> </ul>	「嬉しいときはもっと嬉しそうな顔をしてごらん。歯を見せて笑っていいんだよ」 「体の変化だけで、相手に気持ちをわかってもらうことは難しかったね」 「そういう顔しているだけじゃ、本当の気持ちはわからないんだよ」 「体の変化と言葉、両方が上手に使えているね。さきやりやすいよ」
自分の気持ちを伝えよう！	①相手に体をむける ②ちょうどよい声の大きさで言う ③気持ちをあらわす言葉をあいてにつたわるように言う 相手に伝わるように一言と体、両方大事。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「言葉」を使って自分の気持ち伝えるとき、どんな言葉をどんなふうに言うのがよいか、2つのモデル観察から導く。</li> <li>ポイントを知った後、自分たちでも気持ちを伝える練習をする。</li> </ul>	「その言い方、とてもいいね」 「あなたの気持ちがよく伝わってきているよ」 「この主人公、言葉もいいし、言い方もいいね。相手に伝えるように言えているね」 「話すときには相手に体をどうするんだっけ？」 「話すときにはちょうどよい声でお願いします」 「体も向いているし、聞こえやすい声だね」

夏季休業中に、各学年のスキルを紹介し合い、確認し合った。



(2) 般化・維持・促進への取り組み(全校として)

校内掲示

掲示担当の提案で、昇降口に各学年のピアの内容が分かる掲示物を掲示した。また、階段にはピア新聞を掲示するコーナーを作成した。



ピア・タイム

毎週火曜日、8時15分から8時30分にピア・タイムを行った。

ピア・タイムの実施案は、次のような内容で考えた。

- ・ 授業の事前準備(準備プリントの記入)
- ・ 授業での実習を行うにあたって、基礎的スキルの確認・復習・補充
- ・ チャレンジ・プリントの実施
- ・ 般化・維持・促進のためのスキルの復習
- ・ あいさつ、聞き方等全校で取り組みたい基礎的スキルの練習


児童が、学習したスキルを日常でも頻繁に使用し、流暢に実行できるまでには何度も繰り返し指導する必要がある。しかし、その途中でスキルの確認ばかりをしていると、なぜそのようにした方がよいのかということをおぼえてきてしまう。児童が楽しく練習に取り組みながら、そのスキルを実行する良さを味わえるよう工夫した。

- ・ ピア・タイムで復習したスキルをポスターにして、教室内に掲示する。

掲示したポスターの例


**もっと聞き上手になろう**

- 1, へんじをする。
- 2, していることをやめる
- 3, あいてに体をむける
- 4, うなずく
- 5, さいごまで聞く



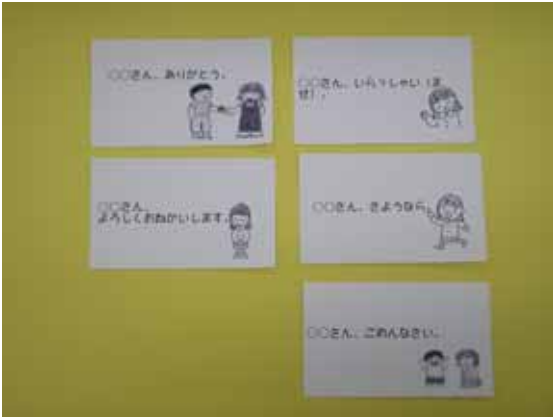
**感情って何**

- ①感情は、何か出来事が起こったとき、  
人の体の内がわで起こる
- ②本当の感情は、本人にしかわからない
- ③感情を表す言葉、感情語はたくさんある
- ④感情が動くと、体にも変化が起こる
- ⑤同時に2つ以上の種類や強さの  
ちがう感情をもつことがある
- ⑥同じ場面においても、人や立場によって  
感情がちがうことがある





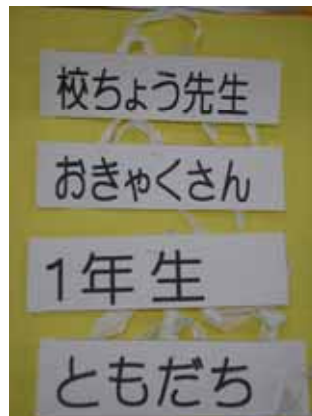
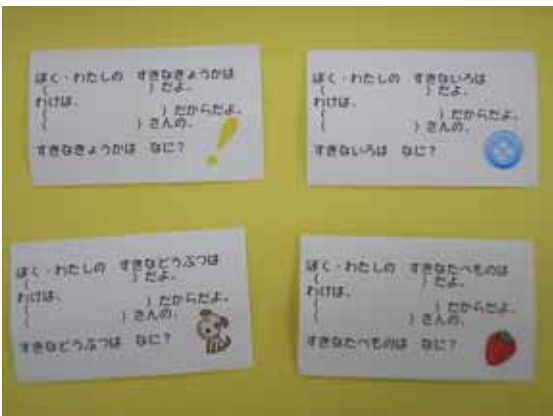
・ 子どもたちが喜ぶ教材・教具の作成



あいさつの練習（あいさつリレー）に使用するカード



使い方はいろいろ・・・感情サイコロ  
(でた感情を動作で、とか似た感情語探し、等)

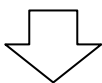


相手によって、挨拶を変えて  
校長先生には「おはようございます」  
友達には「おはよう」など

また、ピア・タイムのはじまりの部分で聞き方を意識させ、刺激が違っていても上手な聞き方ができるようにするよう働きかけた。

第1回ピア・タイムのはじまりの部分より

- 2年生 ・ 2年 くみさん聞いてください。(返事をする。していることをやめる。相手を見る。)  
・ よくできました。今日のピアタイムでは、「聞き方の勉強」をおさらいしましょう。
- 3,4年生 ・ 年 組のみなさん(そう言ってから、していることをやめ、自分の方を見るまで心の中で数を数えてください。実態に応じて5,6年生と同じでもよいです。)  
・ 今、先生が始めようとしてから、 秒でした。次はもっとはやくなると良いですね。
- 5,6年生 ・ だまって前に立ち、児童がしていることをやめ、自分の方を見るまで心の中で数を数えていてください。(刺激が違ってても、きちんとした反応ができるのも般化です。)



・ 今日、1回目のピア・タイムです。

## 1 授業の実施にあたって

1年生では、ピア・サポートの意味を知り、あいさつ上手や聞き上手になることによって友達とよりよい関係をつくり、「なかまとなかよくする、たすけあう」ができるようになることを目指している。あいさつや話の聞き方は、ピア・サポートのなかまづくりのためだけではなく、普段の生活や学習の場面でも大いに役立つスキルである。そこで、どんな場面でも使えるようになることを意識して授業を行った。



例えば、第3セッションでは、「1年組のみなさん。」「班のみなさん。」といった、主に教師が話すときに使う言葉だけでなく、「聞いてください。」「発表してもいいですか。」などの児童が発言するときにも使える言葉を加えて練習を行った。

また、児童の実態に合わせて少し進め方を変えた。DVD映像を見て1回目と2回目を比べる活動では、1回目と2回目のうさぎの違いを押さえてから、くまの気持ちを考えた方が子どもたちには考えやすくよかった。練習の仕方を説明するときには、教師のモデル提示 説明 モデル提示という流れにし、少ない言葉でわかりやすく伝えることを心がけた。練習の場面では、言葉を発しない子や声が小さな子に配慮して、個人練習をグループ練習に変更することもあった。

## 2 般化・維持活動

### (1) チャレンジプリントの実施

各プログラムの最後にあるチャレンジプリントをピアタイムに行い、スキルの習得、熟達に努めた。

### (2) あいさつ週間の実施

1学期と2学期の終わりに、廊下で会った子どもたちに、教師側から積極的にあいさつをした。

自分から進んで上手なあいさつができた児童には、ごほうびシールをあげた。

### (3) 授業中の発言や日直のスピーチを通して

ピア・サポートで学習したことを意識して話したり聞いたりできるよう、教室内の掲示物を確認させたりポイントを言わせたりしながら指導をした。聞き方では「うなづく」が難しいようであったので、できている児童をほめ、回りの児童の意識を高めた。

### (4) 集会の場面で

話を聞く場面で、聞き方が上手だったときに話し手の教師が聞き方をほめたり、上手でなかったときにポイントを確認したりすることがあった。どんな場面でも全教師が同一歩調で指導にあたったので、子どもたちの意識は高まった。1年生は、ほめられることがうれしく、上手に聞こうとしていた。

### (5) 普段の生活で

「今日はお友達10人にあいさつをしよう。」「今日は学校にお客さまが来るのであいさつをしよう。」など意識を高める言葉を教師から投げかけた。1年生は素直なので、教師の働きかけにすぐに答えて実行していた。また、「『相手を見る』がよくできているね。」などとできているポイントをほめ、同時に他のポイントを意識できるようにした。

## 3 成果と課題

### (1) 授業において

#### 第1セッション・第2セッション

- ・児童にとっては初めてのピア授業だったが、補助者や掲示物、DVD視聴など子どもが喜ぶ要素が多く授業を楽しんでいた。子どもたちは上手なあいさつのポイントによく気づき、活発に発言したり練習に取り組んだりしていた。
- ・第1セッション後、担任以外の教師にあいさつができる児童が増えた。あいさつはみんなにするものだということがよくわかった。
- ・第2セッションでは、自分たちの生活に近い場面が例に挙がっていて、学習内容を普段の生活に結びつけて理解できた。

#### 第3セッション・第4セッション

- ・聞き方のポイントを意識するような言葉かけをするだけで、聞く態度がよくなった。

### (2) 児童の変化

- ・あいさつについては、1学期は「自分から」というポイントがなかなかできなかった。しかし、自分からあいさつができる子どもたちをほめ続けていると、次第に自分からあいさつできる児童が増えてきた。
- ・12月の音楽集会に向けての練習では、133名という大人数にもかかわらず、一斉に話を聞く場面で教師の指示がよく通り、スムーズに練習を進めることができた。

### (3) その他

- ・今、子どもたちはあいさつの仕方と上手な聞き方を「わかった」状態である。「わかる」と「できる」ことは違う。すでに身についた児童もいるが、全体に、教師が意識的に刺激を与えないとあいさつや聞き方に対する意識が低くなる傾向がある。また、1年生は自己評価が甘く、実際はできていないのに、「自分はできている。」と思いつている児童が多い。できている児童を教師がほめることで、子どもたちに「目指す姿」を具体的にイメージさせたい。



## 1 授業の実施にあたって

2年生では, 1年生の基本にプラスして, さらに話し上手になったり, 聞き上手になったりすることによって2年生の目標である「なかまや友だちとなかよくする, たすけ合う」ことを目指している。

児童が話す内容を事前に考える時間をピア・タイムに設け, 準備プリントに書いて覚えるよう指導した。このことによってよりスムーズに実習を行えるようにした。実際にどんな聞き方や, 話し方がよいのか, 教師のモデル提示でわかりやすくなるように, 教師同士の役割演技の打ち合わせを行った。

授業後は相手の気持ちに気付かせ, お互いに気持ちよく生活するためにはどうすればよいのか考えさせ, 普段の生活を通して繰り返し実践させていきたい。

## 2 般化・維持活動

## (1) チャレンジプリントの実施

各プログラムの最後にあるチャレンジプリントを宿題やピア・タイムに実施しながらスキルの定着に努めた。

## (2) 廊下や教室の掲示物を通して

常に, 教室の児童に見える位置に各プログラムのポイントを掲示し, ピアタイムや授業時に復誦させ, 確認させた。廊下にも各プログラムのポイントを掲示した。



## (3) ピア・タイムを通して

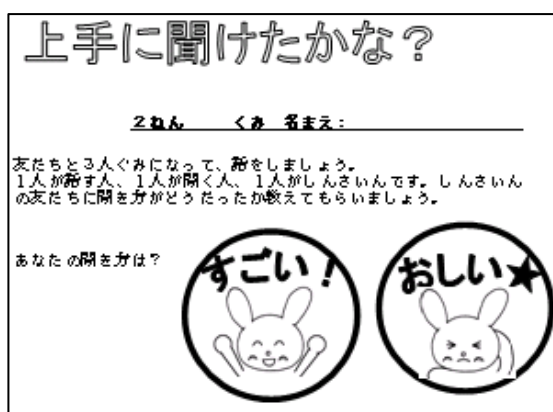
授業で学習したスキルを身につけるために, ピア・タイムでは, チャレンジプリントに取り組むだけでなく, さまざまな活動を通して繰り返し練習した。

練習の仕方が少し変わるだけでも, 児童は楽しく活動に取り組んだ。少しずつであるが, あいづちも自然にうてるようになってきた。

## (4) 授業中(特に考えを述べる場面)の発言や朝の会などのスピーチを通して

授業中やスピーチなどの発言する場面では, 教室内の掲示物を見せ, 意識付けをした。

特にあいづちは, なかなか身に付かなかったので, あいづちカードを教師が時々提示して, 繰り返し働きかけた。パトントッチの言葉について学習した後からは, スピーチの最後に「





さんの好きな遊びは何ですか。」と誰かに話し手が質問する場も設けるようにした。  
しっかりできている児童を賞賛することでどのようにすればよいのか分かるようにした。

#### (5) 普段の生活を通して

普段の授業でも、友達が発表したことに対し、うなずいたり上手なあいづちがうてたりした時はほめ、上手に聞けるようにした。さらに、「さんの意見と同じです。」「さんの意見に付けたしです。」等、自分の意見にもつなげ、意見の深め合いができるように指導している。

### 3 成果と課題

#### (1) 授業において

##### 第1セッション・第2セッション

- ・聞くことが上手な児童が増えることによって、話す側も聞いてもらえるという安心感が出て、もっと話したいと思う児童が増えた。
- ・「すごいね。」「だいじょうぶ。」等話の内容に合わせて、練習した以外のあいづちをうてるようになってきた。

##### 第3セッション・第4セッション

- ・相手にも話をさせてあげることで、より話が楽しくなることを知り、会話を楽しむことができるようになった。
- ・人に何かお願いをしたい時に、自分から声を掛けてお願いできる児童が増えた。

#### (2) 児童の変化

- ・教室が騒がしくなったときなど、「年組のみなさん。」「お話をします。」等の一言で反応し、話を聞くことができるようになった。
- ・子ども達同士で「聞いてください。」ということばを使い、お互いに話したり、聞いたりすることができるようになってきた。
- ・「してくれる。」という上手なお願いの仕方の言葉を使うことにより、自分と相手の意見の違いを意識できるようになった。

#### (3) その他

- ・各セッションのポイントを理解しているため、学年でどのクラスの児童に対しても、同じように指導することができる。指導の仕方にずれが起こりにくい。
- ・活動を保護者の方にも理解していただき、ご協力いただくことができるようにピアっ子新聞などを使って、さらに啓発する必要があると考える。



## 1 授業の実施にあたって

3年生では、自分の気持ちに目を向け「いろいろな気持ちがわかるようになるう」を目指している。1・2年生までと内容が変わるので、児童の戸惑いを減らしながら取り組んでいくことが大切である。

2年生までに、上手な話し方・聞き方を学習していたので、特定の言葉・指示(例えば、「年組のみなさん」)に対して反応し、正しく聞くこと(へんじをする、していることをやめる、あいてに体をむける、うなづく、さいごまで聞く)ができる。しかし、その上手な話し方や聞き方がなぜ大切なのかというピア・サポートの目的に結びついていないために、友達の気持ちを想像せず衝突してしまうことが日常の生活で見られる。



そこで今回の学習では、自分や友達の気持ちを考え、それを表すために言葉があるということに気付かせていきたい。練習も多く含まれるので、体験するうちに実際の人間関係に活かしていけるものと考えて。そして、その体験が、自分やまわりの人を大切にすることにつながっていくようにさまざまな場面で確認していきたい。

## 2 般化・維持活動について

## (1) チャレンジプリントの実施

各プログラムの最後にあるチャレンジプリントや自作のプリントをピア・タイムに実施し、スキルの習得に努めた。表情から気持ちを想像することは難しく、確認の話し合いに重点を置き時間を十分に確保した。

## (2) 廊下や教室の掲示物を通して

気持ちを表す言葉一覧を、わかりやすい掲示物(言葉の木)に作り変え、年間を通して復習に努めた。また顔ポスターを活用し、気持ちを表す言葉の獲得に努めた。

## (3) 授業中の発言

国語や道徳など気持ちを話し合う時には、意識して言葉と気持ちを結びつけていった。子どもたちの感じという漠然とした発言も、話し合いを通して言葉の確認をし、共通の認識をもつように心がけた。

チャレンジ・プリント

楽しく・やさしく  
気持ちニュース

3年 組 番: 番号

さあ今日のこと、思い出してみよう。さあもう気持ちをひらいて今日のこと、思い出したか？  
下のわくの中に書こう。

うれしい 気持ちに合ったよ!

ほかに、ひらいて気持ちをあらわす、書こう。

心の機軸の変化

\_\_\_\_\_ 気持ちに合ったよ

ほかに、ひらいて気持ちをあらわす、書こう。

心の機軸の変化

#### (4) 普段の生活を通して

帰りの会でよいところを発見する場面では、相手を意識して見つけてくれたことに感謝する拍手を取り入れ、支えあうことの大切さに気付けるように努めた。また、大小フェスティバルや学級レクなどグループでの話し合いでは、相手の気持ちを考えるよう声かけをした。「ありがとう」を進んで言っている児童を褒めることで意識を高めるよう努めた。

### 3 成果と課題

#### (1) 授業において

- ・気持ちを表す言葉に注目させたので、普段使っている言葉にも関心が広がった。しかし国語のように気持ちを表す言葉の原因を探してしまうので意識して区別すべきだった。
- ・気持ちの変化に伴って体にも変化が起こることを理解したので、体の変化に注目するようになった。しかしお面の人が出てくると盛り上がりすぎてしまったり、演技によりうまく伝わらなかつたりするので気をつけて取り組むべきである。
- ・改良された台本では指示がわかりやすく、気持ちを体で表現することを楽しみながら取り組めた。同時に、正確に伝えることの難しさを体験できたことで言葉の重要性への意識が高まった。
- ・「ありがとう」を伝える場面が、何かをしてもらったという単純なものではなかったので、演習を終えた後の児童間の関係が温かい雰囲気にも包まれた。しかし、表現そのものに対して抵抗感のある児童への支援について十分準備すべきだった。



言葉の木

#### (2) 児童の変化

- ・話の聞き方や伝え方が、人間関係を築くためにも大切であることがわかり、形式だけでなく心をこめてそのスキルをつかえるようになってきた。
- ・相手の気持ちを想像できるようになってから、相互理解が進み人間関係が円滑になってきた。一人ひとりの個性を認め言葉や伝え方に気をつける児童が増えた。



顔ポスター

#### (3) その他

- ・わかりやすい指示の出し方や適切な言葉かけなど、教師としての基本的なことを身につけることができた。また補助者になることで、他のクラスの児童理解が深まった。
- ・保護者向けピアの体験、学年便りやぴあぴあ新聞などを通して、保護者の関心も高まり、家庭でも日常的な般化・維持活動に進んで取り組んでもらえた。
- ・教育ミニ集会では、地域での子どもの姿をピア・サポートと結びつけて話し合うことができた。「あいさつが良くてよかった」と地域の方から電話連絡をもらうことがあり、地域でも成長した姿が確認できた。



## 1 授業の実施にあたって

3年生で「気持ち」とっていた言葉が「感情」という言葉に変化して、さらに複雑な感情について学習していくのが4年生。

千葉県版頒布DVDの「4年生ピア第1セッションの留意点」には以下のようにある。

3・4年生の内容はつながっており、そのような傾向が強く出ています。具体的には、4年生第1セッションは3年生第1, 2セッションの復習にあたり、4年生第4セッションは、2年生の第3セッション及び3年生の第4セッションの復習+ という具合です。

比較し、まとめた表にすると以下ようになる。

セッション	3年生学習ポイント	セッション	4年生学習ポイント
1	気持ちは人の体の中でおこる	1	感情は、何か出来事がおこったとき、人の体の内側でおこる
	本当の気持ちは本人にしかわからない		本当の感情は、本人にしかわからない
	気持ちをあらわす言葉はたくさんある		感情を表す言葉、感情語はたくさんある
2	気持ちが動くと体にも変化がおこる		感情が動くと、体にも変化がおこる
			同時に2つ以上の種類や強さのちがう感情を持つことがある
3	人の気持ちは、体のへんかでわかる	2	
	人の気持ちは、気持ちをあらわすことばでもっとわかる		
			同じ場面においても、人や立場によって感情がちがうことがある

このあと、第3セッションでは、「強くなりすぎた感情の落ち着かせ方」、第4セッションでは、落ち着かせたのはよいけれど、そのままにしておく結局はもやもやした感情が残る。そこで、その感情を伝え合おう、ということで、その伝え方のスキルを具体的に学ぶ、という流れになっている。

教師自身が授業のセッションだけでなく、その後の学習の流れもきちんと把握し、授業に臨むように心がけた。



## 2 般化・維持活動について

## (1) チャレンジプリントの実施

2回目の授業から3回目の授業までの間が長かったため、チャレンジプリントだけでなく、感情語を集めたり、その集めた感情語を使って話したり、書いたり意識できるようにした。感情の伝え方のプリントでは、何人かの児童はこれまで自分が行ってきた方法と違うため、とまどう子も少なくなかった。感情の伝え方に関しては、まだまだプリントを実施し、スキルを身につけさせ、反復して練習を行っていく必要がある。

## (2) 廊下や教室の掲示物を通して

学習のまとめのプリントは、教室に掲示してフィードバックして常に振り返ることができるようにしておいた。また、感情語については感情語を増やして自分の気持ちにぴったりと合った言葉を使えるよということなので、言葉を見つけてくるごとに、それまでの掲示物に付け足すような形で増やしていった。





### (3) 授業中(特に考えを述べる場面)の発言や朝の会などのスピーチを通して

発表中に学習したばかりの感情語を使うのは難しいようであったが、作文の中には意識して感情語を使って書いている文章を見ることができた。また、何か話し合いをして自分の意見を言う時に、ピアの学習で学んだポイントをいかして「理由を必ず言う」ということと「どうですか。」とまわりに問いかけることを重点的に指導してきた。その結果、児童が話し合いで自分の意見を以前よりも上手く伝えられるようになり、話し合いもスムーズに進むようになってきた。

### (4) 普段の生活を通して

学習した2つのポイント「同時に2つ以上の種類や強さのちがう感情を持つことがある」ということと「同じ場面においても、人や立場によって感情がちがうことがある」ということに関しては、いろいろな場面で実感している児童が多かった。例えば、お楽しみ会の計画や大小フェスティバルの時の話し合いなどで、なかなか意見がまとまらずに揉めていることがあった。そこでピアで学んだ伝え方のポイントを思い出させたり、自分ばかり主張してまわりの意見に耳をかさないというのは間違っているということを指導したりして、話し合いを最後まで進めることができた。

## 3 成果と課題

### (1) 授業において

- ・3年生の時に学習した内容を振り返ることができた。ただ振り返るだけでなく、「気持ち」という言葉を「感情」という言葉に替えて、ステップアップしているという意識を持たせることができた。
- ・感情語をたくさん見つけることができた。
- ・感情語が、感情語辞典として系統立ててまとめられているので、理解しやすかった。
- ・「同時に2つ以上の種類や強さのちがう感情を持つことがある」とか「同じ場面においても、人や立場によって感情がちがうことがある」ということは、実際の生活の中でよくあることであるが、学習した後にそれを実感する場面に出会って初めて納得できている児童が多くなった。
- ・実際に自分の感情を伝える場面では、学習後、とてもよい伝え方だ、と実感している児童も多かった。反面、難しいと感じたりする児童もいた。



### (2) 児童の変化

- ・火曜の大小タイムのピアタイムでやった内容は、非常にわかりやすく、定着しやすかった。
- ・4年生の目標である「おたがいの感情について考え、よい人間関係を作ろう!」を常に意識しながら生活する様子が見られた。そのための方策として、第1セッションからセッションごとに学習した内容を思い出したり使ったりしていた。意識の高まりを感じた。
- ・学習を始める前は、自分の思いを相手に伝えることができず、感情をそのままぶつけて揉め事を起こす児童や、自分の思いを相手に伝えるのをおそれて真っ先に教師のところに来る児童が多かった。しかし、ピアの授業を重ねるにつれて、少しずつ自分の思いを自分で伝えようとする児童が増えてきた。また、気配りをして相手のために行動をすることができるようになってきた。

### (3) その他

- ・教師は指導の際に、横の黒板で確認し、呼びかけを具体的に行うことができた。たとえば、強くなりすぎた感情を持った児童には、「自分自身に落ち着かせる方法を使ってみよう」と助言したり、周囲の児童に対しては、「ピアで学習した方法を使ってみよう」と教えることができた。

## 1 授業の実施にあたって

4年生のピアで感情について学習し、「立場が違う人の感情を考え、落ち着いて自分の感情を伝える」方法を知識として知っている。しかし、何か問題が起きたときに、それを問題としてとらえられなかったり、周囲の力に頼ったりし、受け身的な態度が多く、感情的な態度に出ることも少なくない。そこで、これから思春期に向かうこの時期に、問題をきちんと捉えさせ、5年生の目標である「問題にじっくり取り組み」、その問題解決のスキルを身に付けさせることで、さらによりよい人間関係を築いていけるように取り組んでいった。

## 2 般化・維持活動について

### (1) チャレンジプリントの実施

各プログラムの最後に実施するチャレンジプリントは、家庭学習とせず、火曜日朝のピアタイムの時間をとり、じっくりクラス全体で考えさせるようにした。家庭学習にすると、思考活動が充分行われず中途半端な取り組みになることを心配したからである。クラス全体で同じ問題を考えることにより、自分一人では思いつかなかった方法や違う感じ方に気づくことができた。また、5年生のピア・サポートの学習は、1学期で終了したが、2学期以降は普段の生活の中で起こりうる問題をチャレンジプリントにして実施し、般化・維持に努めた。

### (2) 廊下や教室の掲示物を通して

教室には、常時、目標・各セッションのまとめプリントを、渡り廊下の掲示スペースには、問題解決の4つのステップとそれぞれのコツを拡大・掲示しておいた。いつも目にする場所に掲示しておくことは、児童にとっても教師にとっても問題が起きたときすぐに振り返ることができ意識付けを図るのに有効であった。



教室の掲示物

### (3) 学習中の課題解決場面を通して

各教科での課題解決場面では、1つの方法だけでなくいろいろな方法を考えさせるようにしていった。また、学級での話し合いの時には、いろいろ出された意見に対して、それぞれの良いところや課題点などを出させたり、その意見を取り入れるとどうなるのかということ予想させたりしていった。これらの活動により、ピアで学習したことを実際の生活に生かせるようなスキルを高めていった。

### (4) 普段の生活を通して

些細な問題は、日常的に起きている。自分がとった行動で相手を傷つけてしまったり、友達関係が悪くなったりすることがたびたびある。時には、感情的になるため冷静に考えられなくなり、一方的に自分の考えを押し通そうとすることも。そこで、そのような問題が起きたときに、問題解決の4つのステップ「言葉にする 解決方法を2つ以上 結果を予想 1番よい方法を実行」に目を向けさせるようにした。「今、問題は?」「自分がとった行動の他にどんな行動があったかな?」「そうするとどんな結果になったかな?」「どの方法を選べばよかったかな?」などと、教師側が働きかけ、自分の力で問題解決に取り組んでいけるようにしていった。さらに学習の効果をあげるためには、問題が起こる前にこの4つのステップが考えられるように、タイミングよく指導していくことが大切である。

### 3 成果と課題

#### (1) 授業において

##### 第1セッション・第2セッション

- ・よい結果とよくない結果が裏返しになっていることに、児童自身が表埋めをして気づくことができた。
- ・第2セッションの「解決方法をいくつも考え出すための3つのコツ」の説明で、自作ペープサート(「自分」「かさ」「友達」「自分の家」「友達の家」「木」)を活用することにより、場面説明を捉えやすくするとともに時間を短縮することができた。
- ・問題解決方法を2つ以上考えるとき、×を付けないこともあったか、「みんなが幸せになる方法を意識できずに、片方の立場からしか考えられない児童がいた。「みんなが」というところを強調して、じっくり考えさせる必要性を感じた。



##### 第3セッション・第4セッション

- ・ステップ1では、それぞれの立場に立って考えさせたあとに、みんなにとっての解決すべき問題を考えさせることにより、それぞれの立場をはっきりさせて考えることができた。
- ・キーワードをフラッシュカードで作っておいたため、主語や誰に焦点を当てているかがはっきりとした板書にすることができた。(主語：「ぼくとサポ介」「ぼく」「サポ介」 行動：「かぎをさがす」「ピア子さんをさがしに行く」)
- ・「日常生活に非常に役に立ちそう」という思いを児童に持たせるためには、まず、各セッションのコツをしっかりと覚えさせなければならない。また、実際の生活で問題が起きたときや問題が起こりそうなときに、教師が意識して活用させていかなければならない。

#### (2) 児童の変化

- ・まだまだ受け身的な部分が多く、人任せにしたり、じっくり取り組まず短絡的に解決してしまおうとしたりすることもあるが、問題が起きたときいろいろな解決方法を考えることができるようになってきた。周りにいる友達が「～っていう方法もあるよ。」などと協力し合って解決しようとする姿も見られるようになった。
- ・5年で学習した問題解決のためのコツとして、どのセッションにも「それぞれの立場で～」が出てくる。普段の児童の言動を見ると、まだまだ自己中心的な考えは多いが、それでも少しずつではあるが相手の立場を考えた行動がとれるようになってきている。

#### (3) その他

- ・5年生は1学期に全てのステップを終了したので、その後の各教科の授業や生徒指導等で学習した内容を生かす機会がたくさんあった。
- ・学校で実施したチャレンジプリント・学習した内容や感想が載っている「ぴあぴあ新聞」を家庭に持たせ、保護者に読んでもらったが内容まで浸透させるにはまだまだ啓発が足りなかった。

## 1 授業の実施に当たって

4年生で感情について学習し、落ち着いて自分の感情を伝える方法を、5年生で問題の解決の仕方を学習し、問題解決の方法を身につけてきている。6年生では、それらを踏まえ、自分の考えや感情を積極的にわかってもらうために上手な自己主張の方法を学習する。自己主張は、一歩間違えると、ただの「わがまま」「自分勝手」になってしまう。そうならないために、自分の考えに責任を持ち、話し方や聞き方に思いやりをもった態度で臨むという『上手』という言葉の意味をきちんと教え、実践できるように指導していきたい。そして、般化・維持活動を通して少しでも自分の考えを上手に自己主張できるようになって、中学へ進学してほしいと願う。

## 2 般化・維持活動について

### (1) チャレンジプリントの実施

各プログラムの最後にあるチャレンジプリントをピアタイム等で実施しながら、スキルの練習に努めた。しかし、プリントではうまく出来るが、実践するまでには至らないこともあったので、家庭で起きそうなトラブルや4・5年生での学習の復習も考え、普段のトラブルに基づいた場の設定で自作したチャレンジプリントを実施した。

### (2) 廊下や教室の掲示物を通して

授業で使った掲示物を学年前の通路と各教室に掲示した。ピア授業やピアタイムの時はもちろん、普段の授業の時にも必要に応じ活用し、常に意識させるようにした。また、他学年の掲示物も時に、意識的に見せるようにし、今までの学習内容を確認したり、問題解決の参考にさせたりした。また、ピアタイムで学習した内容を掲示<ピアコーナー>することで、下学年での復習もできた。特に2年生・4年生で学習した聞き方のスキルは6年生の学習に直結する内容なので確認するためにも有効であった。



### (3) 授業中(特に考えを述べる場面)の発言や朝の会などのスピーチを通して

授業中の発表や朝の会のスピーチでは、上手な自己主張の仕方(自分の考えを話し、理由を言い、相手にも意見を求める。)で話をさせるようにした。形が決まっているので児童は話しやすく、聞く側も聞きやすいようであった。上手に自己主張したり、うなずきながら聞いたり、あいづちをうまく打っていたりする児童を賞賛するよう心がけた。

具体的には、大小フェスティバルでの発表原稿や、普段の学習のまとめの場面でも、「自分は について調べて、~と思いました。理由は~。みなさんも~。」と書いたり、話したりすることができるようになった。また、作文を書く際も、「ピアで学習した自己主張の仕方です。」と助言すると、自分の考えと根拠を書け、相手に訴える内容の文章が書けた。特に原稿用紙1、2枚程度に簡潔にまとめる際に有効であった。

### (4) 普段の生活を通して

日常生活をする上で自己主張をする場は数限りなくある。普段から、自分の考えや思いを上手に相手に



伝えるための表現方法を身につけておかないと、陰で愚痴ったり、こうすればよかったのにと文句を言ったりする結果になってしまう。自己主張をするときの3つの柱（言葉・声・体）、聞くときの「相手の主張を受け止めたあいづち」を常に意識し、フクロウを目指すよう指導している。

### 3 成果と課題

#### (1) 授業において

##### 第1セッション

- ・ 現実には相手によって自分の態度を変えることもあるが、本来はフクロウを目指すのが良いのだと指導者が意識して説明していく必要がある。そうでないと相手によって使い分けるほうが良いと誤解することになるからである。

##### 第2セッション・第3セッション

- ・ 3つの柱【言葉・声・体】そして、そのためのステップ・ポイント・コツについては、児童にとってわかりやすく、これらを総合して自己主張することが大切であることを理解できた。ただ、表情については、かなり難しいようであった。特に笑顔をつくるため、口角を上げるなどの方法を教えてあげることも必要であった。



##### 第4セッション

- ・ 自己主張には、今までのスキルに加えて、1・2年で学習した「話の聞き方・うなずき・あいづち」などが重要になってくることが理解できた。
- ・ 自己主張の聞き方「相手の主張を受け止めたあいづち」のコツは、
  1. あいての言葉をくりかえす。
  2. 自分の考えになかったことは認める。の順の方が、児童にとってわかりやすい。

#### (2) 児童の変化

- ・ どのように発言を行うと自分の考えや思いが伝わるのかが理解できてきた。話し方だけではなく表情や声の大きさなど、時と場に応じて使い分けていく必要があるということにも気づいてきた。
- ・ 学級会や授業で自分の考えを主張しなければならない時は、基本的に自己主張のスキルを使うことができるようになってきた。また、人の考えを聞く時も相手を見て聞く姿勢ができるようになってきている。フクロウを目指すそうと意識する児童が増えてきた。
- ・ ヤギ（受け身パターンで自己主張しない）から変化せず、受け身的な児童がまだ見られる。これから中学に向かってわずかの時間しか残されていないが、少しでも上手な自己主張を意識していくことができるようにバックアップしていきたい。

#### (3) その他

- ・ 人間関係が希薄になった現代だからこそ、児童も教師も保護者もみんなが初心に戻り、「思いやりの共同体」を目指し、同一步調で進めていかなければならない。そのための啓発を進んで行う必要がある。
- ・ この後、3月に児童は、今までのピア・サポートの学習を復習し、<卒業ピア>の授業を受けて小学校の学習を完了する。中学では、小学校で学んだことを基礎として【中学のピア】を積み重ね、よりよい人間関係を築いていってほしいと願う。

## 1 授業の実践にあたって

まず, 特別支援学級に在籍する児童は社会性が弱く, 特に低学年の段階のあいさつや話の聞き方などの社会参加に向けて身につけたいスキルを育てる必要がある。

そこで, 可能な限りピア・サポートに参加させ, その技能を身につけさせたいと考えた。児童の実態から1年生の児童のみピア・サポートに参加させた。この児童の特質から, 事前にプレ授業を取り入れることが有効であると考え, 交流学級でピア・サポートを経験する前に本学級で, 数回に分けてプログラムを実施した。

### (1) 特別支援学級でのプレ授業について



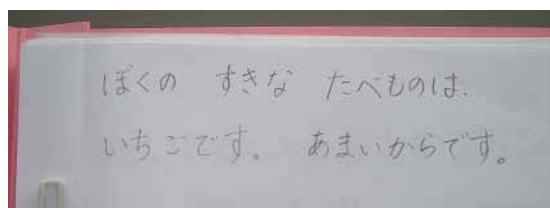
掲示用のファイルを児童のファイルにも綴じ込む...

初めてのことに強い不安や拒否を示すので, 児童の様子を見ながら台本を進めていった。授業で使う資料やビデオもそのまま使用した。掲示用資料も児童のファイルに綴じ込んだ( )。



授業に使うものも予め本人用に準備する...

授業で使うものも本人用に準備し, 何回も手に取れるようにした( )。児童が話す場面では, 言う内容をあらかじめ決めておき, それもファイリングした( )。そして, 教師対児童で活動の練習をした。



話す言葉を書いておき, 授業中, これを見ながら言えるよう準備し, 安心感を与える...

### (2) 交流学級での授業について

ファイルを持ち, 教師が付いてピア・サポートの授業に臨んだ。授業中は, ファイルを見せながら, 実際に行ったことを思い出させた。一人取り残されるのではないかという思いをずっと持っているので, 常に「みんなも同じことをしています。」「この言葉を書きます。」「大丈夫だよ。」「わかばで見たね。練習したね。」と安心させる声かけをした。

## 2 般化・維持活動

チャレンジプリントは難しいので, 普段の生活を通して「挨拶が上手になったね。」「ちゃんと先生の方を向いて話を聞いてえらいね。」と大いに褒め, 自信をつけさせた。

## 3 成果と課題

挨拶は自信を持って上手に言えるようになってきた。しかし, 特別支援学級で挨拶や聞き方の練習をしても, 交流学級での練習は児童にとって初めての場であり, 結局交流学級での練習はできなかった。失敗した経験を成功させるための時間設定はかなり難しい。また, 発語のない児童や友達との関わりがまだ持てない児童にも, このプログラムは難しい。3年生以上のプログラムの実施は無理があるので, 1・2年生のプログラムを何回も繰り返し, 必要な社会性を身につける練習をした方が有効であると考えた。

千葉県版ピアの4回目をパワーアップした第5回目！

**★第5回★**  
**テーマ**  
**人によってちがうことは**  
**当たり前！！**

**目標**  
**もっと おたがいを大切にした**  
**感情の伝え方ができるようになろう！**

ここがポイント！



「怒り」と言っても、その感情の強さには違いがある。それを表したのが「いかりの温度計」

第4セッション

**おたがいを大切にした感情の伝え方**

**ステップ1**  
**言葉を考える**  
 (1) 感情語をえらぶ  
 (2) 感情語の理由を考える

**ステップ2**  
**相手を見て、**  
**ちょうどよい声の大きさと話す**

**ステップ3**  
**相手にも感情と理由を聞く**  
**ハトントンキの言葉をつかう**

・どう思う？  
 ・どうだったのか、教えてくれる？  
 ・そうじゃないかな？ など

第5セッション

**もっと**  
 おたがいを大切にした感情の伝え方ができるようになろう！

**コツ1. 自分の温度を考える。相手の温度も考える。**

**コツ2. 「ねえ、ねえ。ちょっといい？」とたしかめる。**

**コツ3. やわらかい言葉をつかう**

自分が感じている温度より、低い温度の言葉をつかう

「ちょっと」「少し」などの言葉をつける

この第5セッションでは、自分と周りの人の感情が違ふことがあることは、自然なことであることを理解させ、「怒り」の感情を例として取り上げ、その変化について理解させ、よい人間関係を作っていくためには、自分の感情を言葉にしていける必要があることを理解させ、第4セッションの学習をさらに定着させるようにさせる。ということをおねらいとしています。



第1セッションから第5セッションまでの総まとめ  
全職員で授業を行います。



第6回

いつも心にピア・サポート！

目標

1年間の学習をふいかえて、  
いつでも使えるようにしよう！

さあ、冒険の旅に出かけよう！

☆大山の森に入る準備は  
できていますか？☆

みなさん、森に入り、探検する準備はできていますか？今から下の5つの問題を解いて、準備ができているか確認してみましょう。5つの問題が全てできたグループだけが、大山の森に入ることができます。グループみんなで協力してがんばりましょう！

まず、「大山の森」をスタートするには、ピアの基本がわかっていないといけません。



クマ太郎は、人間の感情を表情から読み取ることができません、助けてあげると、宝のヒントカードをもらうことができます。

強すぎる感情を持っているトラを「感情を落ち着かせる3つのステップ」を使って落ち着かせなくてはなりません。そうでないとトラはますます怒りが増し…。

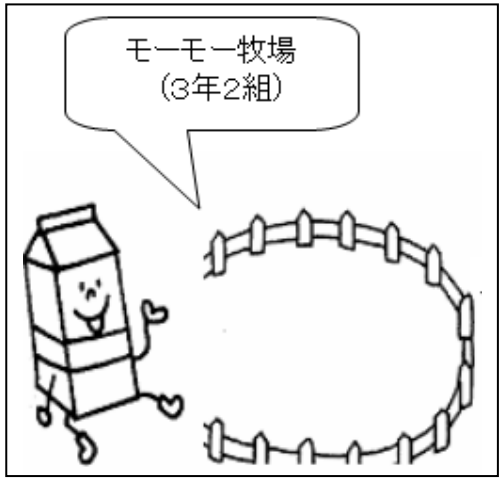






自分の感情の温度がわからなくなっているウサギに、何度なのかを教えてあげて、その感情を「感情語」を使って伝えてあげます。

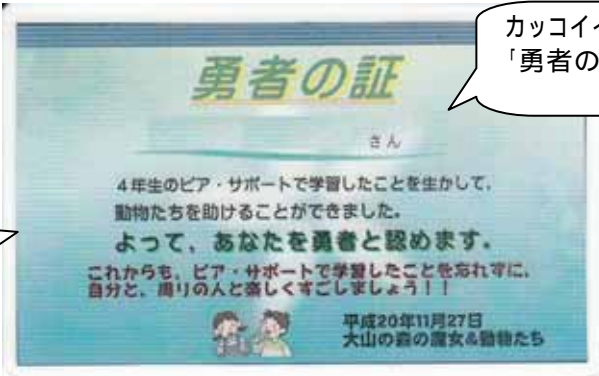
同じ場面においても人や立場によって感情が違ってくることを考えて、ウシと勝負します。その感情を「感情語」を使って伝えてあげます。



伝え方がわからず悩むサルのウッキーに感情の伝え方を教えてあげます。



第1セッションから第5セッションで学んだスキルを上手に使って各部屋をクリア。最後は「大山の森」の暗号を解決すると…。



カッコイイ「勇者の証」をゲット！

卒業してからも(中学校に行ってから)新しい友達と楽しく会話ができるようにする。

**テーマ**  
**新しい場所でもいっぱいピア!**

**目標**  
**新しい場所で、  
 楽しく会話をしよう!**



### 声をかけるときのコツ

いつ

コツ1. タイミングをつかんで

コツ2. ステップ1, 2は短く、  
あるいは省略して、質問する

コツ3. 明るい声で(トーンを上げる)

コツ4. 笑顔で

上手な自己主張の仕方

言葉

ステップ1. 自分の主張の結論を言う  
 ステップ2. 結論の理由を言う  
 ステップ3. 相手にも意見を聞く

声

ポイント1. ちょうどよい声の  
大きさ・速さで言う

体

ポイント1. 相手に顔と体を向ける  
 ポイント2. 話の内容に合わせた表情をする

上手な自己主張の聞き方

ポイント1.  
相手を受け止めたあいづちをうつ

